

第14回
日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会

プログラム・抄録



テーマ：
「地域を支える医療マネジメントを目指して」

日 時 ■ 2024 年 11 月 9 日（土曜日）10：00～16：00
会 場 ■ 松山市医師会館
会場 住所 ■ 〒790-8601 愛媛県松山市藤原 2 丁目 4-70
☎089-915-7700

学術集会会長 ■ 医療法人社団樹人会 北条病院 理事長院長 高石 義浩

「第14回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会」開催にあたって ◆ 学術集会会長あいさつ

第14回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会会長
高石 義浩（医療法人社団樹人会 北条病院 理事長院長）

この度、第14回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会を2024年11月9日に松山市医師会館にて「地域を支える医療マネジメントを目指して」というテーマで開催させていただくことになりました。

さて約5年もの間、いわば“ゼロコロナ”を続けてきた医療現場も、COVID-19が2023年5月8日に5類感染症に指定されたことを契機に“ウィズコロナ”に向けて加速する社会とのギャップを埋めるように変化に対応し続け、ようやく一応の目途が立ったのではないのでしょうか。コロナの出現による様々な環境変化は、社会全体でコミュニケーションの変化をもたらし、それはまた不可逆的なものだとも言われています。そのような中でも医療分野は、従来対面原則であった診療もオンライン診療のようなICTやデジタル技術を活用した医療DXの推進を加速させ、医療サービスの品質向上や医療従事者の業務効率化、患者の利便性向上などを実現することを目指し、変化に対応していくことが求められています。医療DXにつきましては、昨年の本学会で済生会熊本病院院長 中尾浩一先生の非常に有意義なご講演を拝聴し、様々な未来を創造し実現していくために研鑽に努めているところであります。

近年、かかりつけ医などが患者の社会生活面の課題にも目を向け、地域社会における様々な支援へとつなげる「社会的処方」が注目されていますが「誰がリンクワーカーを担うのか」など多くの課題に対し、地域における適正な人員確保・配置いわゆる共創のマネジメントのあり方を模索していかなければならないと考えます。そして平常時と災害や新興感染症の流行など、次の非常時にも地域住民から変わらぬ信頼を得られる地域包括システムの構築を如何に進めていくか、そこに私たちのマネジメント力を注力していく必要性を感じております。このような変革の時に、特別講演では、地域の病院の現場から医療政策、地域振興まで非常に幅広く活動的に活躍されている全国自治体病院協議会 名誉会長 邊見 公雄先生をお招きすることができました。愛媛の今後の課題や方向性について、貴重なお話をご教授いただけるものと期待しております。愛媛県各地よりご参加される皆様にとりまして、充実した楽しい学会となりますよう鋭意準備して参りますのでよろしくお願い申し上げます。

「第14回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会」開催にあたって ◆ 愛媛県支部支部長あいさつ

檀本 真幸（日本医療マネジメント学会愛媛県支部支部長・四国医療産業研究所所長）

我々医療・介護分野での感染症対応はこれまでと概ね変わらぬものの、長かったあのコロナ色の風景も過去のものとなり、マスコミはもとより世間でコロナの話題をほとんど見聞きすることがなくなりました。一方コロナ予備費と言われる「ばらまき!？」政策による医療費投入のつけが、2024年度の診療報酬トリプル改定に多大な影響を及ぼすことになり、厳しい医療経営を余儀なくされる状況に陥っています。またコロナ禍により、DXや連携の必要性を10年以上も加速したと言われ、この“危機的かつチャンスでもある時代”の改定に、言うまでもなく注目は集まっています。さらに医療者等の処遇改善・ベースアップも含めて、医療マネジメントの重要性は増すばかりであり、この学会の役割の大きさを改めて感じているところです。

2024年度からは、当会の事務局がHITO病院に移転することになり、石川賀代事務局長（副支部長）のリーダーシップのもとスタートすることとなりました。当会の今後の発展にとって欠かせない大変心強いチャンスをいただき、将来のイメージを膨らませているところです。創設からこれまでの10年余りにわたって、当会を引っ張っていただいていた古林事務局長（新居浜十全病院名誉院長）様には、引き続き役員としてご指導いただきます。これまでのご労苦に心から感謝申し上げますとともに、今後ともどうかご支援の程よろしくお願いいたします。

さて2024年度第14回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会ですが、高石義浩総会長のもと、北条病院の主催で、11月9日（土曜日）、松山市医師会館で開催する運びとなっております。地域密着型病院として北条病院を発展させてこられた実績があるだけに、「地域を支える医療マネジメントを目指して」という大会テーマから、主催者の意気込みが響き伝わってきます。特別講演には、邊見公雄先生（全国自治体病院協議会 名誉会長）をお招きし、「生命輝かそう医療マネジメント学会愛媛支部の仲間達へ ～地域包括医療・ケアの時代に～」という演題でお話をいただきます。「良い医療を効率的に、地域住民の方々とともに作り上げる」を掲げられ、地域医療構築に全力されてこられた邊見先生から、この厳しい時代を乗り越えていくヒントやエネルギーをいただけたと思います。

地域包括ケアシステムが初めて診療報酬改定に登場したのは、2012年度でした。その後一貫して最重要項目として掲げられて、2024年度トリプル診療報酬改定においても、今後の医療・介護の理念として位置づけられ、疾病管理ケアから生活重視へ、この流れが今後も変わることはありません。評価指標もサービス提供体制の手段から、在宅・生活に戻すという結果（アウトカム）に切り替えられ、データを集め適宜評価するために、DX化は待たなして推進されていきます。またベースアップは、医療介護の分野も例外ではなく、小手先ではなく、人事を見直し抜本的な改善を進めていかなければなりません。医療も経営という考え方が不可欠であり、「働き方改革の真意」を踏まえ、職員のやる気や患者からの信頼度向上を意識した、DX化と地域での幅広い連携強化が求められています。また「電子カルテ化しないなら 医療辞めますか？」も聞こえてきました。もはや診療報酬追従型の小手先の変更調整では限界は明らかです。「人・モノ・カネ・情報」の調整に、経営者としての能力が問われる時代になったことを覚悟しなければなりません。

少子高齢社会を背景とした地域包括ケアシステムが目指しているのは「個々人のパフォーマンスの向上」と言ってもよいと思います。医療・介護機関においても、「パフォーマンスの向上」を狙いに、チャレンジ・チェンジが必要です。住民・患者が“してもらう主役”ではなく、“参加する主役”として、セルフケア力の向上や地域づくり活動等が全国に普及することが求められています。2025年問題から2040年問題への速やかな移行を図るために、投資としてDX化を推進し活かすことで、住民からの信頼を確保することが重要です。医療による地域における生活資源としての強力なマネジメント力が期待されています。

会場案内

◆会場へのアクセス

松山市医師会館 いきいきホール 大会議室 A 大会議室 B
〒790-8601 愛媛県松山市藤原 2 丁目 4-70
TEL：089-915-7700



JR 松山駅から車で約 5 分

伊予鉄バス 北伊予線（松山市駅 6 番のりばより北伊予駅前方面行き）雄郡小学校東門前より徒歩 3 分

伊予鉄道 土橋駅より徒歩 8 分、松山市駅より徒歩 12 分

松山インターから車で約 15 分

◆会場ご案内

第 14 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会では、松山市医師会館を使用します。

プログラム

会場 松山市医師会館 いきいきホール 大会議室 A 大会議室 B
〒790-8601 愛媛県松山市藤原 2 丁目 4-70
TEL : 089-915-7700
FAX : 089-915-7710
会期 2024 年 11 月 9 日 (土曜日) 10 : 00 ~ 16 : 00
学術集会会長 高石 義浩 (医療法人社団樹人会 北条病院 理事長院長)
テーマ

地域を支える医療マネジメントを目指して

- 9 : 00 ~ 日本医療マネジメント学会愛媛県支部役員会 【大会議室 A】
- 9 : 30 ~ 開場・受付
- 10 : 00 ~ 10 : 05 日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会 【いきいきホール】
開会挨拶 高石 義浩 (医療法人社団樹人会 北条病院 理事長院長)
- 10 : 05 ~ 10 : 15 移動
- 一般演題 【大会議室 A】
- 10 : 15 ~ 11 : 15 一般演題 (1)
座長 : 守屋 昭子 (医療法人 住友別子病院 看護部長)
- 11 : 20 ~ 12 : 20 一般演題 (2)
座長 : 児島 二美子 (医療法人社団樹人会 北条病院 看護部長)
- 一般演題 【大会議室 B】
- 10 : 15 ~ 11 : 15 一般演題 (3)
座長 : 崎田 智美 (愛媛大学医学部附属病院 副院長・看護部長)
- 11 : 20 ~ 12 : 20 一般演題 (4)
座長 : 長谷部 徳恵 (松山赤十字病院 看護部長)
- 12 : 20 ~ 12 : 30 移動・休憩
- 12 : 30 ~ 12 : 50 日本医療マネジメント学会愛媛県支部総会 【いきいきホール】
愛媛県支部長挨拶
榎本 真聿 (日本医療マネジメント学会愛媛県支部長)
議事討議 (議長 : 支部長)
進行事務局代表 石川 賀代 (HITO 病院 理事長)
第 13 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会 優秀演題賞
並びに奨励賞表彰
- 12 : 50 ~ 14 : 00 休憩・昼食 (75 分)

14:00～15:00 特別講演 【いきいきホール】
「^{いのち}生命輝かそう医療マネジメント学会愛媛支部の仲間達」
～地域包括医療・ケアの時代に～（トリプル改定に対応して）
演者：邊見 公雄 先生
（特定非営利活動法人 地域医療・介護研究会 JAPAN 会長）
座長：高石 義浩（医療法人社団 樹人会 北条病院 理事長院長）

15:00～15:15 質疑応答

15:15～15:20 日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会 【いきいきホール】
閉会挨拶 高石 義浩（医療法人社団 樹人会 北条病院 理事長院長）

学術集会参加費： 日本医療マネジメント学会会員 500 円
学会非会員 1,000 円
日本医療マネジメント学会愛媛県支部役員 1,000 円
学生会員 無料
※参加費は、当日受付にてお支払いください。
現金のみのお支払いとなります。

その他： 当日、日本医療マネジメント学会愛媛県支部役員会並びに総会を行います。学会会員の皆様、是非ともご参加お願いします。なお学会会員の皆様だけでなく学会非会員の皆様の参加も歓迎致します。

連絡先： 日本医療マネジメント学会愛媛県支部事務局
社会医療法人石川記念会 HITO 病院 理事長 石川 賀代
〒799-0121 愛媛県四国中央市上分町 788-1
TEL 0896-29-5604 FAX 0896-59-2282
メール management-ehime@hito-medical.jp

【カテゴリー】

クリティカルパス	1-1 作製・導入、1-2 電子化クリティカルパス、 1-3 アウトカム分析・バリエーション分析、1-4 その他
医療安全	2-1 インシデントレポート・ヒヤリハット報告、 2-2 安全管理、安全対策、2-3 危機管理、2-4 カルテレビュー、 2-5 安全教育・研修、2-6 コンフリクト、2-7 クレーム、 2-8 その他
医療の質	3-1 個人情報保護、3-2 コンプライアンス、3-3 感染対策、 3-4 栄養管理・NST、3-5 褥瘡対策、3-6 チーム医療、 3-7 臨床指標、3-8 口腔ケア、3-9 その他
医療情報	4-1 電子カルテ・IT関連、4-2 診療録管理、4-3 広報活動、 4-4 その他
地域医療連携	5-1 地域連携ネットワークシステム、 5-2 地域連携クリティカルパス、5-3 患者支援・退院支援、 5-4 在宅医療、5-5 救急医療、5-6 リハビリ、5-7 その他
教育	6-1 人材育成、6-2 コーチング、6-3 認定看護師、 6-4 看護教育・教育、6-5 その他
病院運営	7-1 診療報酬、7-2 病歴管理、7-3 物流管理、 7-4 病院マネジメント手法、7-5 DPC、7-6 コスト管理、 7-7 組織運営、7-8 モチベーション向上、7-9 その他
患者サービス	8-1 CS向上、8-2 患者教育、8-3 その他
看護業務	9-1 看護運営、9-2 看護必要度、9-3 チーム医療、9-4 その他
検診業務	10-1 生活習慣病、10-2 その他
その他	11-1 その他

参加者の皆さまへお願い

◆座長の皆さまへお願い

受付は9時30分より開始いたします。担当セッション開始時間の15分前には次座長席またはその周辺の席にお着きください。

演題発表後のフロアからの質問につきましては、あらかじめ座長より「質問のある方は挙手の上、質問をお願いします。なお質問においては、まず所属と氏名を名乗ってから簡潔にお願いします。」のアナウンスを行い、質疑を開始してください。時間厳守でお願いします。口演は6分で1回、7分で2回ベルを鳴らします。質疑応答は2分で2回ベルを鳴らします。

また、日本医療マネジメント学会愛媛県支部では、お互いの呼称を「〇〇先生」とせず、文書では「〇〇様」、呼ぶ時には「〇〇さん」とさせていただきます。特別講演の演者のみ「〇〇先生」と呼びます。

◆演者の皆さまへのお願い

受付は9時30分より開始いたします。学会スタッフよりご案内いたしますので、データの動作確認をお願いします。また、担当セッション開始時間の5分前には次演者席にお集まりください。

会場で使用するパソコンはWindowsのみです。アプリケーションはPowerPointです。音声は利用できません。担当セッションの30分前までに受付でデータの動作確認を行ってください。

一般演題は、口演7分、質疑応答2分です。口演は6分で1回、7分で2回ベルを鳴らします。スライドの枚数に制限はありませんが、ご講演時間内に終了するように準備してください。また、質疑応答は座長の指示に従ってください。

◆参加者の皆さまへのお願い

今回の一般演題は大会議室A及び大会議室Bの2会場で行います。学会スタッフよりご案内いたしますので移動をお願いします。

昼食は大会議室でお取りください。

松山市医師会館内に飲み物類の自動販売機はありません。ご持参ください。

第14回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会会長
医療法人社団樹人会 北条病院 理事長院長 高石 義浩

開会挨拶（10：00～10：05）いきいきホール

第14回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会会長

高石 義浩（医療法人社団樹人会 北条病院 理事長院長）

一般演題（１）（１０：１５～１１：１５）大会議室 A

座長　：守屋　昭子（医療法人　住友別子病院　看護部長）

演題①　：コロナ禍におけるケアマネとのリモート面会について
菊池　幸恵（きくち　ゆきえ）
市立八幡浜総合病院　地域医療連携室

演題②　：医療者向けがんサバイバーシップ教育プログラムの開発
青儀　健二郎（あおぎ　けんじろう）
独立行政法人国立病院機構四国がんセンター

演題③　：心不全手帳を活用して指導したことによる看護師の意識変化
井手　奈々美（いで　ななみ）
独立行政法人　労働者健康安全機構　愛媛労災病院

演題④　：「夜寝てもらおう」～せん妄予防対策の取り組み～
光田　美穂（みつた　みほ）
医療法人社団樹人会　北条病院

演題⑤　：院内移植コーディネーター活動の評価と課題
山本　可奈（やまもと　かな）
愛媛大学医学部附属病院

※1 題発表 7 分、質疑応答 2 分、時間厳守でお願いします。

演題① : コロナ禍におけるケアマネとのリモート面会について
演者名 : 菊池 幸恵 (きくち ゆきえ)
所属 : 市立八幡浜総合病院 地域医療連携室

共同演者名 :

演題内容

当地域の高齢化率は約 42%で、当院の患者の平均年齢は 77.7 歳、入院前より介護保険を利用している患者は約 34%、在宅からの入院は約 80%である。高齢化が高く介護保険を利用している患者が多い状況下で、ケアマネとの連携は特に重要である。

コロナ禍においてケアマネとの連携に問題が生じているのではないかと考え、第 12 回の当会でケアマネとの連携について発表し、問題点が明らかとなった。そこで対策を立て支援を実施している。

R5 年 5 月よりコロナ感染症が 5 類となったが当院では面会を家族のみに限定しておりケアマネと患者の面会はリモート面会を継続している。リモート面会を実施したケアマネ 28 人に聞き取り調査を行い、連携についての評価を再度行い、今後の課題を検討したので報告する。

カテゴリー = 5—3 (患者支援・退院支援)

演題② : 医療者向けがんサバイバーシップ教育プログラムの開発
演者名 : 青儀 健二郎 (あおぎ けんじろう)
所属 : 独立行政法人国立病院機構四国がんセンター
共同演者名 :

演題内容

近年、がんサバイバーシップケアの概念が注目されているが、医療者に対する教育や実践展開は不十分である。2022 年開始の日本癌治療学会・ファイザー製薬による医療者向け医学教育プログラム開発助成として、日本サポーターシップケア学会がんサバイバーシップ部会提案の「日本の医療者に向けたがんサバイバーシップ教育プログラムの開発」が採択された。研究期間は 3 年、具体的に E-ラーニング開発・評価と、地域研修開発・マニュアル作成を目指した。2022 年度は本邦で展開できるサバイバーシップケアを調査し、2023 年度は医療者想定ユーザーに対する学習希望調査後、9 つのケア課題を決定、E-ラーニングコンテンツを作成した。2024 年度は、地域におけるケア実施上の問題点を討議すべく松山市で 7 月 6 日に地域研修を開催した。本研究の詳細と明らかになった課題を報告する。

カテゴリー = 3—6 (チーム医療)

演題③ : 心不全手帳を活用して指導したことによる看護師の意識変化
演者名 : 井手 奈々美 (いで ななみ)
所属 : 独立行政法人 労働者健康安全機構 愛媛労災病院
共同演者名: 青野紗津樹、鈴木麻理、黒川恵実

演題内容

生活習慣の欧米化に伴う虚血性心疾患の増加や、高齢化などにより心不全患者が急増している。心不全は増悪と緩解を繰り返しながら進行していく疾患である。心不全患者の生活習慣や理解度に応じた看護師による生活指導は、心不全再入院リスクを軽減することが明らかにされており、心不全増悪予防には、薬物療法の治療だけではなくアドヒアランスやセルフケアを重視した患者教育が重要と言われている。A 病院における心不全指導は令和2年度に心不全手帳を導入し、指導の統一化を図り、使用基準、チェックリストをもとに指導を行っていた。しかし、心不全の増悪により再入院を繰り返している状況であった。再入院の一因として、心不全手帳を適切に活用できていないことが関係しているのではないかと考えた。他者がどんな指導をしているのかを、多職種を含む勉強会で知り、心不全手帳を活用した指導をすることで看護師の意識が変化したので報告する。

カテゴリー = 5-3 (患者支援・退院支援)

演題④ : 「夜寝てもらおう」 ～せん妄予防対策の取り組み～
演者名 : 光田 美穂 (みつた みほ)
所属 : 医療法人社団 樹人会 北条病院
共同演者名: 二神砂緒里、戒田文子、竹田喜久恵、児島二美子、高石義浩

演題内容

当院の入院患者のほとんどは後期高齢者で、加齢や認知機能障害、入院による環境の変化や治療等によりせん妄が発症し、点滴類の自己抜去や転倒などによって、必要な医療が安全に実施できないケースもある。昨年度、病棟看護主任会と薬剤科が協働し、病棟看護師・看護助手を対象に「夜寝てもらおう」せん妄対策の勉強会を7回シリーズで実施した。内容は体内時計と睡眠ホルモン、夜間の薬の使い方、患者の不快感を軽減するためのスキンケアや便秘予防など「夜寝てもらおう」ための基本的知識と予防対策を学んだ。

病棟では、せん妄を促進する因子の除去として、朝カーテンを開けサーカディアンリズムを整える、保湿剤使用による痒みの軽減、便秘予防など患者の苦痛の軽減に取り組んだ。

また、せん妄で使用する薬剤について、全診療科で認識を統一し、看護師は勉強会で得られた知識をもとに、せん妄の予防から治療まで速やかに行えるようになった。

カテゴリー = 3-6 (チーム医療)

演題⑤ : 院内移植コーディネーター活動の評価と課題
演者名 : 山本 可奈 (やまもと かな)
所属 : 愛媛大学医学部附属病院
共同演者名 : 新居 由香

演題内容

【目的】院内移植コーディネーター（以下院内 Co）としての活動を評価し課題を明らかにする。
【方法】院内 Co の活動を振り返り評価する【結果・考察】毎年、多職種で臓器提供マニュアルの加筆修正とシミュレーションを繰り返したことは実際のコーディネート活動に効果的であった。院内 Co の選出が関連部署経験者から行われていたことも順調な連携に繋がった。マニュアルに従い、病院長や看護部長などが参加した全体ミーティングを開催したことにより関係各所への協力依頼等が効率的に行われた。日本臓器移植ネットワーク Co とは毎日、打ち合わせをすることで計画的で効率的な活動に繋がった。人材育成としては経験年数の浅い Co が先輩 Co と一緒に動くことが OJT となった。2 名の Co が連携して関わることで長時間の対応が可能となった一方、夜間に係る家族との関わりにおいて日勤だけの多職種との連携が課題となった。院内 Co 増員のため活動の推進が重要である。

カテゴリー = 11-1 (その他)

一般演題（２）（１１：２０～１２：２０）大会議室 A

座長　：児島　二美子（医療法人社団樹人会　北条病院　看護部長）

演題⑥　：外来採血の待ち時間短縮が実現できた取り組み
三木　昭子（みき　あきこ）
医療法人　住友別子病院

演題⑦　：透析室における順番穿刺導入を試みて
井手　知美（いで　ともみ）
社会福祉法人　恩賜財団　済生会今治病院

演題⑧　：12 時間夜勤導入の効果
地久里　公美（ちくり　くみ）
愛媛大学医学部附属病院　看護部

演題⑨　：当院における医師業務から CE ヘタスクシフト(シェア)した実例と成果について
小野　慶人（おの　よしと）
社会医療法人石川記念会 HITO 病院　臨床工学科

演題⑩　：当院の院内トリアージ導入における取り組みについて
林　正徳（はやし　まさのり）
市立宇和島病院　看護部　救急外来

演題⑪　：ケアアシスタント事務への看護業務のタスクシフト
石橋　保枝（いしばし　やすえ）
医療法人　住友別子病院　入退院サポートセンター

※1 題発表 7 分、質疑応答 2 分、時間厳守でお願いします。

演題⑥ : 外来採血の待ち時間短縮が実現できた取り組み
演者名 : 三木 昭子 (みき あきこ)
所属 : 医療法人 住友別子病院
共同演者名 :

演題内容

昨年度の当院における 1 日外来患者数は平均 850 名、採血人数は平均 220 名であった。採血は開院時間から 2 時間に集中している。採血待ち時間は平均 60 分と長く、外来診療にも影響を及ぼしていた。そこで、中央処置室の採血ブースを 4 カ所から 7 カ所まで段階的に増やし、採血担当者の勤務を 8 時出勤に変更した。次に、各科外来に採血応援を依頼し、採血ブースを全て使用するよう取り組んだ。その後、前日のミーティングで採血予定人数、採血要員数を伝え、可能な限り開院時間から 7 カ所運用できるよう各科外来に応援調整ができるようシフト体制を構築した。

このシフト体制を構築できた事で、開院時間から採血応援が増員でき採血ブース 7 か所を使用し、採血待ち時間が 30~40 分に短縮することができた。そして、10 時 30 分頃には採血予定人数を終了できるようになった。結果、中央処置室に余力ができ、各科外来の処置業務を中央処置室に移譲することができ外来間連携の活性化にも繋がった。

カテゴリー = 8-1 (CS 向上)

演題⑦ : 透析室における順番穿刺導入を試みて
演者名 : 井手 知美 (いで ともみ)
所属 : 社会福祉法人 恩賜財団 済生会今治病院
共同演者名 :

演題内容

2022 年度透析患者満足度調査の結果、穿刺時間に対する満足度が最も低かった。また、スタッフは穿刺を急がされることでプレッシャーを感じ、穿刺に対するストレスを感じている。順番穿刺を導入することで、患者の満足度向上と平等性の担保、スタッフの穿刺に対するストレス緩和に繋がるのではないかと考えた。

順番穿刺導入後、患者とスタッフにアンケート調査を行った。患者満足度は 100% であった。看護師の 7 割が穿刺に対する負担が軽減したと回答した。しかし、臨床工学技士 (以下技士とする) の殆どは、穿刺人数が増え負担が大きくなったと回答した。そこで、技士の穿刺後に看護師が回路に繋ぎ、技士の負担を軽減すると共に業務の効率化を図った。

その結果、看護師と技士が協働し順番穿刺を行うことで、患者満足度の向上と平等性の担保ができた。またスタッフの穿刺に対するストレスが軽減できた。

カテゴリー = 8-1 (CS 向上)

演題⑧ : 12 時間夜勤導入の効果
演者名 : 地久里 公美 (ちくり くみ)
所属 : 愛媛大学医学部附属病院 看護部
共同演者名 : 池内 麻穂

演題内容

【はじめに】A 病院 B 病棟は整形外科・救急科 48 床で週 15 件以上の手術があり、週 3 日の手術日の夜勤は看護師の疲労感が顕著であった。そこで長時間拘束される 16 時間夜勤から 12 時間夜勤へ切替えることにした。

【目的】12 時間夜勤導入により看護師の時間外勤務時間が減少する。また夜勤後の疲労感が軽減する。

【方法】2023 年 9 月看護師に説明後シフト別業務の見直しを行い 12 月より導入した。1 か月後に疲労感についてアンケートを行った。

【結果】平均時間外勤務時間は 22.8 時間/月から 20.1 時間/月へ減少した。半数以上の看護師が 16 時間夜勤に比べ疲労感は軽減したと答えた。

【考察】ロング日勤後の時間外勤務時間の減少が全体の時間減少につながった。また、夜勤時間が短縮しただけでなく、日勤から次の夜勤までのインターバルが 23 時間あることが疲労感に影響したと考える。

【結論】12 時間夜勤導入により平均時間外勤務時間は減少し、夜勤後の疲労感も軽減した。

カテゴリー = 9-1 (看護運営)

演題⑨ : 当院における医師業務から CE ヘタスクシフト(シェア)した実例と成果について
演者名 : 小野 慶人 (おの よしと)
所属 : 社会医療法人石川記念会 HITO 病院 臨床工学科
共同演者名 :

演題内容

当院では 2013 年臨床工学科設立時から、心・脳カテーテル清潔介助、2019 年人工呼吸器離脱試験の実施、2021 年からスコープオペレータ・麻酔補助業務を開始した。その業務内容、成果と組織マネジメントについて報告する。

【成果】カテーテル清潔介助とスコープオペレータでは、助手を担う医師 1 名の代行が CE によって可能となった。特にカテーテル手術では執刀医 1 名で手術が完結できている。さらには、人工呼吸器離脱試験を CE が行うことで、人工呼吸器離脱時の医師判断にも寄与できるようになった。これまで全身麻酔導入時には、麻酔科医は一人で同時に複数の業務を行う必要があったが、CE が麻酔補助として、薬液準備・麻酔記録・麻酔器・輸注ポンプ操作等を行うことにより、麻酔科医は麻酔管理に集中することができるようになった。

【まとめ】CE へのタスクシフトは医師の業務負担軽減と医療の質向上に有用であると考えている。

カテゴリー = 3-6 (チーム医療)

演題⑩ : 当院の院内トリアージ導入における取り組みについて
演者名 : 林 正徳 (はやし まさのり)
所属 : 市立宇和島病院 看護部 救急外来
共同演者名: 毛利 千晴

演題内容

市立宇和島病院（以下、当院）は南予救命救急センターとして、内科疾患から外傷まで、幅広い症状に迅速に対応し、四国西南地域の「最後の砦」としての役割を担っている。救急外来を受診する全ての患者が、医師の診察を受けるまで安全に待機できる環境を整える必要がある。

『緊急度の高い患者を見逃さないこと』を目標に緊急度判定システム（JTAS）を基準にした当院独自のトリアージ基準を用い、病院受診から15分以内にトリアージを実施した結果、98%のトリアージ実施率となった。担当医師、医療事務等との連携も図り、2023年11月よりトリアージ加算が導入され病院収益にも繋がった。今後の課題として、トリアージの質の維持、再評価の方法など、引き続き安心して診療が受けられる院内体制を整えていく必要がある。

カテゴリー = 5-5（救急医療）

演題⑪ : ケアアシスタント事務への看護業務のタスクシフト
演者名 : 石橋 保枝 (いしばし やすえ)
所属 : 医療法人 住友別子病院 入退院サポートセンター
共同演者名: 鈴木 豊子

演題内容

2018年度診療報酬改定で看護職員と看護補助者との業務分担・共同の推進がより明確化された。これにより主として事務的業務を行う看護補助者（以後、ケアアシスタント事務）が、看護職員の行う書類・伝票の整理・作成の代行、診療録の準備等の業務が可能となった。当院では2019年よりケアアシスタント事務を配置し、タスクシフトに取り組んだ。業務内容をカルテや書類の不備確認、患者説明、予定入院患者の入院に必要な書類及び入院生活における説明の実施、患者背景などのデータベース収集とし業務マニュアルを作成した。さらに、ケアアシスタント事務が業務遂行できるよう教育プログラムを計画し教育を進めた。2022年より緊急入院に関する情報収集にも対応するためシステムの再構築を行い、業務内容を拡大し、病棟看護師の時間外削減につながった。

カテゴリー = 5-3（患者支援・退院支援）、6-1（人材育成）、6-4（看護教育・教育）

一般演題（3）（10：15～11：15）大会議室 B

座長　： 崎田　智美（愛媛大学医学部附属病院 副院長・看護部長）

演題⑫　：安全はこの手にある～機器管理のプロとしての役割～
辻　彰（つじ　あきら）
医療法人社団樹人会　北条病院

演題⑬　：ロボット支援手術導入における取り組みと今後の課題
大村　真奈美（おおむら　まなみ）
社会福祉法人　恩賜財団　済生会今治病院

演題⑭　：多職種協働セルケアシステム®と ICT 活用の有効性
山田　幸奈（やまだ　ゆきな）
社会医療法人石川記念会 HITO 病院

演題⑮　：看護記録委員による急変時看護記録の取り組みと効果
濱本　光（はまもと　こう）
一般財団法人積善会　十全総合病院

演題⑯　：理学療法業務の改善に向けた Excel データベースアプリケーションを使用した取り組み
山本　晃大（やまもと　こうた）
市立大洲病院

演題⑰　：ケアの質改善に向けた業務用 SNS の活用
三木　悠平（みき　ゆうへい）
医療法人健康会　介護老人保健施設アイリス

※1 題発表 7 分、質疑応答 2 分、時間厳守でお願いします。

演題⑫ : 安全はこの手にある～機器管理のプロとしての役割～
演者名 : 辻 彰 (つじ あきら)
所属 : 医療法人社団樹人会 北条病院
共同演者名 : 浅田 真由美、光田 美穂、児島 二美子、高石 義浩

演題内容

医療施設において医療機器の安全性や信頼性を確保するために保守管理体制を組織的に充実させることは、医療の質の向上や安全確保にとって非常に重要な要素である。
当院では臨床工学技士が透析機器類、人工呼吸器、輸液・シリンジポンプなどの機器を管理し、返却ごとの点検、貸出返却履歴や修理履歴、稼働状況を把握している。
しかし、当院の臨床工学技士は透析室の配属であり、透析室業務を行う傍ら院内の医療機器の管理業務を実施している。そのため、臨床工学技士として医療機器の確実な管理や職員への教育、指導といった発信が充分に出来ていないと考える。
今回、明らかになった問題点を分析し、当院の体制に合った安全でかつ効率的な機器運用を目指し、体制の見直しを行ったので今後の展望を含め報告する。

カテゴリー = 2-2 (安全管理、安全対策)

演題⑬ : ロボット支援手術導入における取り組みと今後の課題
演者名 : 大村 真奈美 (おおむら まなみ)
所属 : 社会福祉法人 恩賜財団 済生会今治病院
共同演者名 :

演題内容

手術支援ロボットは、低侵襲技術を用いて複雑な手術を可能とするために開発された。国内でも急速に導入が進み、珍しい手術ではなくなった。当院が位置する今治地域は、さらなる高齢化が進むことが想定される。高齢の患者さまが増える中でも地域医療の安定を守りさらなる充実をはかるために、より患者さまの負担が少なく、医師の負担も軽減できる「人にやさしい」新たな医療技術の導入を目指し、手術支援ロボット「hinotori」が導入された。手術室では、多職種が連携し安心安全に手術ができるよう手術支援ロボット「hinotori」チームが編成された。ロボット支援根治的前立腺全摘除術（以下 RARP）を既に行っている病院の見学を実施し学んだことをチーム内で話し合いシミュレーションを行い、2024 年 3 月に初症例を実施した。現在 8 症例実施しており、ファーストチーム以外のスタッフも RARP が担当できるよう取り組んでいる。

カテゴリー = 3-6 (チーム医療)

演題⑭ : 多職種協働セルケアシステム®と ICT 活用の有効性
演者名 : 山田 幸奈 (やまだ ゆきな)
所属 : 社会医療法人石川記念会 HITO 病院
共同演者名 : 上村武義 細川明美

演題内容

当院では 2020 年から多職種協働セルケアシステム®の導入し、ケアの質改善にむけて運用を開始し、2021 年 3 月と 2024 年 4 月にケアの質評価を実施した。評価は日本看護質評価改善機構の看護ケアの 6 つの領域を参考に実施した。具体的には「場を作る」では、職種間のコミュニケーションは十分機能しているでは、90%がそう思う/強くそう思うと回答し、iPhone のチャット機能の活用による成果が見られた。また、入退院支援カンファレンスを通して患者のケアの評価が実施されていると 80%が回答し、日々の多職種カンファレンス (以後セルカンファレンス) では話し合う場がいつでも提供できていた。「家族の絆を強める」では家族を含めたケアへの関わりが 2020 年と比べて 22%から 62%に向上し、ICT の活用がケアの継続性に効果がみられた。これらの結果から ICT の活用が病棟運営体制と多職種間のコミュニケーションの円滑化に有効であることが示唆された。

カテゴリー = 9-3 (チーム医療)

演題⑮ : 看護記録委員による急変時看護記録の取り組みと効果
演者名 : 濱本 光 (はまもと こう)
所属 : 一般財団法人積善会 十全総合病院
共同演者名 : 松尾 美保

演題内容

当院は看護記録を SOAP とフォーカスチャータリングの 2 つの形式で分け、使用している。その中で急変時記録はフォーカスチャータリングで行っている。記録委員会では「急変時記録はフォーカスチャータリングに記載すること」、「困った時はマニュアルを参照すること」、「経時記録で事実のみ記載すること」を重点的に取り組んでいた。しかし結果としてマニュアルに準じた内容とならないことも多く、成果が出ていなかった。そこで今回抜本的な急変時記録の充実を図ることを目的とし取り組みを行った。その結果効果が認められたため報告する。

研究目的

記録委員会の取り組みによって急変時記録の充実が図ることができたか検証することができる。

結論

- 1) 当院の急変時記録はこれまで記録委員会で問題としていた点と相違があった
- 2) マニュアル改定と e ラーニングで記録の充実・質の向上に繋がった
- 3) 今後は急変時記録を維持向上させるための取り組みが必要

カテゴリー = 6-4 (看護教育・教育)

演題⑩ : 理学療法業務の改善に向けた Excel データベースアプリケーションを使用した
取り組み
演者名 : 山本 晃大 (やまもと こうた)
所属 : 市立大洲病院
共同演者名 :

演題内容

当院のリハビリテーション室は、診療科別に専属の理学療法士を配置する専任制を導入し、専門分野にリソースを集中する体制を敷いている。この体制により、業務の効率化と責任の明確化を進めているが、情報の集約機会の少なさや、専任制導入前と患者との関係性に大きな変化がないことが課題であった。課題に対応するため、Excel2016 と VBA を用いて自作のデータベースアプリケーション（以下、DB と略す）を導入した。DB は、入力誤りを防ぎ、視認性を向上させる利点があるほか、自由にデータシートやフォームを作成できる柔軟性を持つ。一方で、情報をデータベースに入力する作業時間が課題となったが、入力データと代行依頼用紙の兼用や、カンファレンス記録を一元化し、作業効率の向上と情報管理の付加価値を創出することで対処した。今後の課題は、総合的な業務負担や患者サービスへの還元方法の検証、集約した情報の整理を挙げる。

カテゴリー = 4-4 (医療情報、その他)

演題⑪ : ケアの質改善に向けた業務用 SNS の活用
演者名 : 三木 悠平 (みき ゆうへい)
所属 : 医療法人健康会 介護老人保健施設アイリス
共同演者名 :

演題内容

わが国では、医療・介護分野での ICT 活用が推進されている。これまで病院と施設間の入退院時の申し送りにおいて、紙面だけでは動作や介助方法などが伝えきれないことがあった。現在、同グループではチャット機能を搭載した業務用 SNS を活用している。今回、業務用 SNS による情報共有の変化や活用についてアンケート調査した。

44 名の回答結果から、36% が「口頭や紙面だけの申し送りでは十分・やや十分に情報が伝えることができている」に対し、100% が「チャット機能を活用することで情報が伝わりやすくなった」、92% が「活用により生活支援の話がしやすくなった」などの回答が得られた。

今回、ほぼ全員が利便性を感じる結果となった。これはチャット機能の強みである場所や時間に制約されずに多数が情報を得られ、多職種カンファレンスや介助方法を共有する場面にも活用できる点が大きい。それにより統一したケアが立案され、利用者家族の安心な生活に寄与できる。

カテゴリー = 3-6 (チーム医療)

一般演題（４）（１１：２０～１２：２０）大会議室Ｂ

座長　：長谷部　徳恵（松山赤十字病院　看護部長）

- 演題⑱　：当院の転倒・転落対応チームの歩み　ー多職種で行うようになるまでー
三好　麻希（みよし　まき）
医療法人社団樹人会　北条病院
- 演題⑲　：内視鏡ファイバースコープ取り扱い行動による環境汚染要因
岸　近栄（きし　ちかえ）
医療法人　住友別子病院
- 演題⑳　：身体的拘束最小化への取り組み　ーチーム医療活性化委員会と認知症ケアチームの協働ー
柏　潤耶（かしわ　じゅんや）
社会医療法人石川記念会 HITO 病院
- 演題㉑　：検査前後の内視鏡取り扱い方法の見直し
山路　寛之（やまじ　ひろゆき）
社会福祉法人　恩賜財団　済生会今治病院
- 演題㉒　：インスリン事故再発防止への取り組み　ー看護スタッフのインスリン知識と教育ー
守谷　景子（もりや　けいこ）
一般財団法人積善会　十全総合病院
- 演題㉓　：新型コロナウイルス感染症の５類感染症移行後における、
手指消毒回数改善を目的とした看護部感染対策委員会の取り組みと成果
和田　薫（わだ　かおる）
医療法人　住友別子病院

※１題発表７分、質疑応答２分、時間厳守でお願いします。

演題⑱ : 当院の転倒・転落対応チームの歩み ー多職種で行うようになるまでー
演者名 : 三好 麻希 (みよし まき)
所属 : 医療法人社団樹人会 北条病院
共同演者名 : 戒田文子 光田美穂 高石義浩

演題内容

当院では医療安全活動の一つとして転倒・転落（以下転倒）に対応するチームを編成し、転倒ラウンド（以下ラウンド）を実施している。活動開始当初、転倒の把握が遅れ、ラウンドが行えないことが多々あった。2019 年度に活動内容の大幅な見直しを行い、それ以降順に、ラウンド時の記録表改定、データベース作成、カルテ記載内容チェック等、転倒対応の改善を行ってきた。その結果、転倒把握までの時間が短縮され、ラウンドの早期実施が可能となった。また、昨年度よりチーム編成を見直し、多職種参加のラウンドを開始した。それまでは転倒時の内的要因、外的要因の把握だけであったが、多職種で関わる事により行動要因の把握も行えるようになってきている。また、ラウンド結果を院内にフィードバックすることで、職員の意識が高まり、事前に転倒予防対策が行われることも増えてきている。このチームの活動内容の歩みを報告する。

カテゴリー = 2-2（安全管理、安全対策）

演題⑲ : 内視鏡ファイバースコープ取り扱い行動による環境汚染要因
演者名 : 岸 近栄 (きし ちかえ)
所属 : 医療法人 住友別子病院
共同演者名 :

演題内容

当院では上部内視鏡・下部内視鏡検査を合わせて年間で 7000 件程度実施している。内視鏡スタッフは、マニュアルに沿った内視鏡ファイバースコープ(以下ファイバー)の洗浄消毒業務に携わっている。そんな中、使用後のファイバーを正確に取り扱わない事で、自分自身の汚染や、環境汚染が拡大してしまうことを知った。そこで、スタッフアンケートを実施したところ、ファイバーの洗浄消毒はマニュアルを十分熟知して業務を行っていた。しかし、ファイバーの取り扱い行動が環境汚染にどの程度影響をおよぼしているのかは十分理解できていないという結果だった。そのため、ファイバー取り扱い時の環境の汚染具合を可視化するために蛍光塗料とブラックライトを用いた検証を実施した。その検証結果からファイバーの取り扱い時の注意項目があきらかとなったのでここに報告する。

カテゴリー = 3-3（感染対策）

演題⑩ : 身体的拘束最小化への取り組み
-チーム医療活性化委員会と認知症ケアチームの協働-

演者名 : 柏 潤耶 (かしわ じゅんや)
所属 : 社会医療法人石川記念会 HITO 病院
共同演者名 : 村上雅之 近藤恵美子 細川明美 田淵典子

演題内容

当院は急性期ケアミックス型の病院で、70 歳以上の患者の占める割合は約 7 割となっている。身体拘束は人間としての尊厳を損害し多くの弊害をもたらす行為であるが、転倒転落の防止や、点滴や経鼻経管栄養チューブの自己抜去等、治療の中断防止目的で身体拘束が行われている現状があった。2022 年度より多職種からなるチーム医療活性化委員会で身体的拘束最小化に取り組んできた。一方で精神科医師、認知症看護認定看護師を中心とした認知症ケアチームでは、認知症高齢者の中でも特に身体的拘束のハイリスクな患者を抽出して予防介入を行っていた。患者の尊厳を守り、同時に安全に治療が遂行できるよう更なる取り組み強化のため、チーム医療活性化委員会と認知症ケアチームが協働し、体制・マニュアル整備とともに、高齢者の権利、倫理観を高める教育、実際に現場に向かい身体的拘束を受けている患者の環境や治療、ケアについて提案するなどの実践活動を紹介する。

カテゴリー = 3-6 (チーム医療)

演題⑪ : 検査前後の内視鏡取り扱い方法の見直し
演者名 : 山路 寛之 (やまじ ひろゆき)
所属 : 社会福祉法人 恩賜財団 済生会今治病院
共同演者名 :

演題内容

令和 4 年 5 月に日本医療機能評価機構 医療安全情報より「使用済み内視鏡の別の患者への使用」について事例報告があった。その際、当院専従リスクマネージャーから使用前後の内視鏡取り扱い方法について質問を受け、その結果各個人で認識に食い違いがあり、運用方法が統一されていないと指摘された。
その為今回、使用前後の内視鏡取り扱い方法とスタッフ間の認識について現状把握を行い、問題点を抽出し見直しと改善を行った。

カテゴリー = 2-2 (安全管理、安全対策)

演題② : インスリン事故再発防止への取り組み ～看護スタッフのインスリン知識と教育～
演者名 : 守谷 景子（もりや けいこ）
所属 : 一般財団法人積善会 十全総合病院
共同演者名 :

演題内容

糖尿病性ケトアシドーシス・高浸透圧高血糖症候群などの異常高血糖の治療はインスリンの持続静脈投与のため入院加療が必要である。当院は糖尿病の当該病棟がなく一般病棟に入院するが、異常高血糖の治療症例は年間5例程度しかなく、それぞれの病棟で年に1・2例に当たるかどうかの治療である。今回、異常高血糖のためインスリン静脈投与を行う患者に対しインスリンを過少投与するヒヤリハットが発生した。ヒヤリハット発生後にオーダーシステムの変更・医師への周知、インスリン専用注射器の変更が行われたが、治療介助を行う看護師自身にインスリンの知識が無ければ同じようなヒヤリハットを繰り返すのではないかと考えた。当院看護スタッフのインスリンに関する知識調査し、その後勉強会、理解度テストを行い今後の課題がみえてきたため報告する。

カテゴリー = 2-5（安全教育・研修）

演題③ : 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後における、
手指消毒回数改善を目的とした看護部感染対策委員会の取り組みと成果
演者名 : 和田 薫（わだ かおる）
所属 : 医療法人 住友別子病院
共同演者名 : 藤井 克匡

演題内容

【背景・目的】新型コロナウイルス感染症が、2023年5月に5類感染症へ移行した後、2023年4月～9月の病棟における平均手指消毒回数が9.7回/日 患者へと減少した（2022年4月～9月は同12.8回/日 患者）。コロナ禍が終え、日常業務における手指衛生行動への動機づけが低下していることが原因の一つと考えられた。これに対し2023年度10月より、看護部感染対策委員会では、病棟における手指消毒回数の増加・維持を目的とした取り組みを行った。

【方法】2023年10月～2024年7月。1.蛍光塗料による手指衛生と个人防护用具の正しい着脱の研修会、2.アルコール手指消毒剤の個人使用量の評価、3.手指の培養、4.手指衛生バッジの作成、5.手指衛生のイベント化、に取り組んだ。

【結果】2023年10月～2024年3月の、病棟における平均手指消毒回数は10.9回/日 患者、2024年4月～2024年7月は同10.7回/日 患者であった。

【考察】今回の取り組みにより、手指消毒回数に増加・維持が見られた。

カテゴリー = 3-3（感染対策）

日本医療マネジメント学会愛媛県支部総会（12：30～12：50）いきいきホール

◆愛媛県支部長挨拶

櫃本 真聿（日本医療マネジメント学会愛媛県支部長）

◆議事討議

議 長：櫃本 真聿（日本医療マネジメント学会愛媛県支部長）

進行事務局代表：石川 賀代（社会医療法人石川記念会 HITO 病院 理事長）

◆第 13 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会 最優秀演題賞並びに奨励賞表彰

◎最優秀演題賞

演題 22 ：多職種を巻き込んだ効果的なせん妄予防の取り組み

演者名：上原 雅代（うえはら まさよ）

所属 ：愛媛大学医学部附属病院 泌尿器科・歯科口腔外科

共同演者名：福本 哲也、合田 啓之、村上 聡、曾根 司央子

第 13 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会会長

松野 剛（社会福祉法人 恩賜財団 済生会今治病院 院長）

休憩・昼食（12：50～14：00）

特別講演（14：00～15：00）いきいきホール

座長：高石 義浩（医療法人社団樹人会 北条病院 理事長院長）

演題名：「^{いのち}生命輝かそう医療マネジメント学会愛媛支部の仲間達」
～地域包括医療・ケアの時代に～（トリプル改定に対応して）

遠見 公雄（へんみ きみお）先生

特定非営利活動法人 地域医療・介護研究会 JAPAN 会長

【学歴】

1968年 9月 京都大学医学部卒業
1970年 3月 大和高田市立病院 外科医員
1972年 4月 京都大学医学部附属病院 第二外科医員
1978年 2月 赤穂市民病院 外科医長
1987年 4月 赤穂市民病院 病院長就任
2009年 4月 赤穂市民病院 名誉院長就任

【資格】

1969年 1月 医師免許
1979年 3月 京都大学医学博士

【役職】

特定非営利活動法人 地域医療・介護研究会 JAPAN 会長
公益社団法人全国自治体病院協議会名誉会長
一般社団法人全国公私病院連盟副会長
一般社団法人日本専門医機構理事
NPO法人ペッツ・フォー・ライフ・ジャパン名誉理事長
一般社団法人日本病院会参与（元常任理事）
兵庫県参与
兵庫県医療審議会副会長
関西広域救急医療連携計画推進委員会会長
赤穂市観光大使
京都大学医学部付属病院運営顧問会議委員
京都大学超高齢社会デザイン価値創造ユニット特任教授
公立大学法人奈良県立医科大学学外有識者委員会委員
京都府公立大学法人経営審議会委員
公益社団法人日本人間ドック学会理事（元サーバーヤー）
公益財団法人日本医療機能評価機構理事（元サーバーヤー）
同志社大学大学院アドバイザリー・ボード
有限責任中間法人京都大学外科交流センター相談役（初代会長）
特定非営利活動法人日本医療経営機構理事
地域医療福祉情報連携協議会名誉会長
一般社団法人健康・医療・教育情報評価推進機構 最高顧問
また、厚生労働省社会保障審議会医療部会委員並びに医療分科会委員（2005.9～2011.10 中央
社会保険医療協議会委員）をはじめとする国・県・自治体等多数の要職を兼任してきた
2018. 4 ひょうご人生 100 年時代プロジェクト推進委員
日本から外科医がいなくなることを憂い行動する会 理事
2007. 地域医療福祉情報連携協議会 名誉会長

◆ 特別講演要旨

「^{いのち}生命輝かそう医療マネジメント学会愛媛支部の仲間達」
～地域包括医療・ケアの時代に～（トリプル改定に対応して）

特定非営利活動法人 地域医療・介護研究会 JAPAN 会長
邊見 公雄（へんみ きみお）先生

今回のトリプル改定は増え続ける高齢者救急その中でも比較的軽症の方々を地域包括医療病棟（地メディ）と言うものを新設し、医療費を抑制するのが大きな目玉であった。
しかし、6月までの準備期間のシミュレーションや地域包括ケア病棟協会（現地域包括ケア推進病棟協議会）緊急アンケートでも、移行したいが難しいとの回答が多かった。6月施行時にも申請が少なく厚生労働省はQ&Aなどで、施設基準・要件・期間など緩和を計っている。
又急性期病棟も重症度や看護必要度の見直しにより7対1病棟からの脱落が多く見込まれる。
前回改定が見込み違いの微増になったのを踏まえたのであろう。
職員の処遇改善にアップ分の殆どを注入なので、厳しい対応が必要の改定である。
演者は卒后以来、殆どを地域医療に携わってきた。その中で試みて来た経験や、中央社会保険協議会（中医協）での3期6年間の経験なども話してみたい。

また小生が終活・思送りに始めた地域生き残りの為に創設した
NPO 地域医療・介護研究会（LMC）にも少し触れたい。

お隣の徳島県三好市三野町で育ったので、
愛媛県の皆様にお会いできるのを楽しみにしております。



質疑応答（15：00～15：15）いきいきホール

閉会の挨拶（15：15～15：20）いきいきホール

第14回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会会長
高石 義浩（医療法人社団樹人会 北条病院 理事長院長）

第 14 回 日本医療マネジメント学会愛媛県支部 総会資料

日本医療マネジメント学会愛媛県支部 会則

(名称)

第 1 条 本支部は日本医療マネジメント学会愛媛県支部と称する。

第 2 条 本支部の事務局は財団法人積善会十全総合病院に置く。事務局は会計を兼任する。

(目的)

第 3 条 本支部は日本医療マネジメント学会の地方支部として、医療マネジメントに関する学術、研究の交流をはかり、医療の進歩に資することを目的とする。

(事業)

第 4 条 本支部は前条の目的を達成するために学術集会、研究発表会ならびに講演会の開催を行う。(会員の資格)

第 5 条 本支部は、愛媛県に在住または勤務する日本医療マネジメント学会会員を以て構成する。

(学術集会)

第 6 条 本支部は年 1 回以上学術集会を開催する。学術集会のうち主たるものを支部学術集会と呼ぶ。

第 7 条 支部学術集会の演者は招待講演者を除き、必ず、日本医療マネジメント学会の会員であることとする。

(入会・退会の手続き)

第 8 条 本支部への入会は日本医療マネジメント学会に入会手続きを行うことにより行う。日本医療マネジメント学会を退会した場合には、本支部を退会したものとする。

(役員)

第 9 条 本支部に次の役員を置く。

支部長	1 名
副支部長	1 名
幹事	若干名
監事	2 名
個人情報管理担当	1 名
学術集会会長	1 名
次期学術集会会長	1 名

(役員の任期)

第 10 条 役員の任期は 2 年とする。ただし再任は妨げない。役員に欠員を生じた場合、支部長が愛媛県に在住または勤務する日本医療マネジメント学会会員の中より補欠の役員を選任する。補欠の役員の任期は前任者の残任期間とする。

(役員の委任、選出)

第 11 条 支部長は幹事の互選により役員会で選出し、総会で決定する。

第 12 条 副支部長および監事は支部長が幹事の中から指名する。

第 13 条 支部長は愛媛県に在住または勤務する日本医療マネジメント学会会員の中から、役員会の議を経て若干名の幹事を追加指名することができる。

第 14 条 学術集会会長、次期学術集会会長は支部学術集会に際して行われる役員会で役員の中より選出する。

（役員役割）

第 15 条 支部長は本支部を代表し会務を総括する。また、支部長は年 1 回以上支部総会を招集し、支部総会の議長を務める。また、支部総会において本支部の活動報告及び活動方針報告を行う。

第 16 条 副支部長は支部長を補佐し、支部長が事故あるときはその職務を代行する。

第 17 条 監事は本支部の会務、会計および財産を管理する。監事は支部総会において本支部の監査報告を行う。

第 18 条 学術集会会長は本支部の今期支部学術集会を主催する。次期学術集会会長は次回支部学術集会を主催する。

（役員会）

第 19 条 役員会は支部長、副支部長、幹事、監事、学術集会会長、次期学術集会会長を以て構成し、支部の活動を推進し、支部学術集会、研究発表会ならびに講演会などの集会を企画する。

第 20 条 支部学術集会当日には役員会を行う。また役員会は必要に応じて随時開催する。

（運営費）

第 21 条 本支部の運営のための費用は、支部学術集会の参加費および諸団体からの寄付金、補助金をもってこれに充てる。支部学術集会の参加費は別に定める。

第 22 条 支部学術集会の資料代は別途請求できることとする。

（会計年度）

第 23 条 本支部の会計年度は毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日をもって終わる。

（決算及び監査）

第 24 条 本支部の事務局、会計は毎年 4 月 30 日までに決算し、監事の監査を受けなければならない。また事務局はその会計結果を支部総会で報告しなければならない。

（会則の変更）

第 25 条 本支部の会則の変更は役員会で行い、支部総会に報告する。

（その他）

第 26 条 この会則に定めるものの他、本支部運営に必要な事項は役員会の議を経て、支部長、事務局が別に細則として定める。

第 27 条 会員の中から個人情報管理担当を選任し、本支部の会員情報を管理する。

（附則） この会則は平成 26 年 11 月 9 日より施行する。

日本医療マネジメント学会愛媛県支部 会告

会告1 日本医療マネジメント学会愛媛県支部会員お互いの呼称

日本医療マネジメント学会愛媛県支部ではお互いの呼称として「〇〇先生」は使用しない。
文書では「〇〇様」、呼ぶ時は「〇〇さん」でお願いします。
なお、「〇〇先生」を使用した場合の罰則規定はありません。
日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会特別講演講師のみ「〇〇先生」を使用します。
(2010/05/22)

会告2 日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会発表者の入会義務

日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会発表者は学会会員に限られます。
未入会の日本医療マネジメント学会愛媛県学術集会発表者の皆様、入会手続きをお願いします。
なお、日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会参加については学会会員はもちろんのこと、
学会会員以外の方もOKです。日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会には大勢の皆様の
ご参加をお願いします。
(2010/11/06)

会告3 日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会参加者の事前登録

日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会参加者の事前登録はありません。
当日参加よろしくお願いします。参加費は 1,000 円です。
(2010/11/21)

会告4 日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会参加費

第 2 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会より、参加費について、学会非会員は
1,000 円、学会会員は 500 円とします。(なお愛媛県支部役員は 1,000 円です。)
(2011/11/06)

日本医療マネジメント学会愛媛県支部の歩み

【年月日】

【開催会名】

2010/05/22 (土)	第0回日本医療マネジメント学会愛媛県支部役員会(設立準備会)
2010/11/21 (日)	第1回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2011/11/06 (日)	第2回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2012/11/10 (土)	第3回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2013/11/17 (日)	第4回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2014/11/09 (日)	第5回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2015/11/15 (日)	第6回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2016/11/23 (水)	第7回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2018/ 1/ 20 (土)	第8回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2018/11/23 (金)	第9回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2019/11/03 (日)	第10回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2021/09/25 (土)	第11回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2022/10/01 (土)	第12回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2023/09/30 (土)	第13回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2024/11/09 (土)	第14回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会

日本医療マネジメント学会愛媛県支部役員名簿(2024 年 11 月 03 日現在)

役員名 氏名 所属病院役職

支部長	檀本 真聿	四国医療産業研究所所長
副支部長	石川 賀代	H I T O病院理事長
幹事	青儀 健二郎	四国がんセンター臨床研究推進部長
幹事	東 良子	済生会松山病院看護部長
幹事	阿部 聖裕	愛媛医療センター院長
幹事	石川 賀代	H I T O病院理事長
幹事	石川 美保	公立学校共済組合四国中央病院看護部長
幹事	一井 美哉子	
幹事	伊藤 千鶴	公益社団法人愛媛県看護協会
幹事	井上 貴博	有限会社アポトライ代表取締役
幹事	今村 高暢	愛媛生協病院院長
幹事	大久保 啓二	大洲中央病院院長
幹事	越智 淳三	西条市立周桑病院副院長
幹事	梶原 伸介	市立宇和島病院事業管理者
幹事	北川 哲也	公立学校共済組合四国中央病院院長
幹事	木戸 保秀	松山リハビリテーション病院院長
幹事	長谷部 徳恵	松山赤十字病院看護部長
幹事	古林 太加志	一般財団法人積善会十全総合病院名誉院長
幹事	崎田 智美	愛媛大学医学部附属病院看護部長
幹事	鈴木 美佐	愛媛労災病院看護部長
幹事	高石 義浩	北条病院院長・理事長
幹事	高橋 令子	愛媛労災病院看護部長
幹事	竹田 喜久恵	北条病院医療連携室長
幹事	田淵 典子	H I T O 病院副病院長
幹事	鶴岡 裕昭	愛媛十全医療学院附属病院病院長
幹事	中村 寿	十全総合病院院長
幹事	西尾 俊治	南高井病院院長
幹事	松下 愛子	愛媛医療センター看護部長
幹事	松野 剛	社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院院長
幹事	水田 史子	一般財団法人積善会十全総合病院看護部長
幹事	宮嶋 優里	済生会今治病院看護部長
幹事	宮岡 弘明	社会福祉法人恩賜財団済生会松山病院院長
幹事	守屋 昭子	住友別子病院看護部長
監事	田中 敬二	南松山病院理事長
監事	岡部 健一	旭川荘南愛媛病院院長
新幹事	吉田 幸生	鬼北町立北宇和病院長
新幹事	廣岡 昌史	愛媛大学病院総合診療サポートセンター長

第13回 日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会 収支決算書

(令和 6年 3月31日現在)

	細目	収入金額	支出金額	合計
収入	愛媛県支部会計より	401,362		
	預金利息	4		
	学術集会参加費 180名分	159,500		
	(500円×41名、1,000円×139名)			
	プログラム協賛広告料 3社分	60,000		
	(20,000円×3社)			
	学会本部より補助金	61,500		
支出	Webプログラム作成費		80,000	
	印刷代・郵送費・振込料		29,810	
	事務費		2,772	
	特別講演講師謝礼金		44,548	
	特別講演講師交通費&宿泊料		48,800	
	最優秀演題賞(図書カード) (@20,000円×1件)		20,000	
	奨励賞(図書カード) (@ 3,000円×4件)		12,000	
	愛媛県支部会計へ		444,436	
	合計	682,366	682,366	0

普通預金通帳

伊予銀行(銀行コード:0174) 新居浜支店(店番号:250)

普通預金(科目:1) 口座番号:4103249

口座名義:日本医療マネジメント学会 愛媛県支部 代表者 古林太加志

令和 6年 3月31日現在の残高は以上のとおり相違ありません。

代表: 古林 太加志



監査報告

2023 年度日本医療マネジメント学会愛媛県支部の収支について、会計帳簿、預金通帳および証拠書類により監査いたしましたところ、適正に処理されておりました。

以上、監査の結果を報告いたします。

日本医療マネジメント学会愛媛県支部長 櫃本 真幸殿

2024 年 3 月 22 日

監事 岡部 健一

(自筆) 岡部 健一

2024 年 3 月 30 日

監事 田中 敬二

(自筆) 田中 敬二

第 13 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会優秀演題賞

日 時 ■ 2023 年 9 月 30 日（土）
会 場 ■ テクスポート今治
学術集会会長 ■ 松野 剛（済生会今治病院院長）

◎最優秀演題賞

演題 22 : 多職種を巻き込んだ効果的なせん妄予防の取り組み

演者名：上原 雅代（うへはら まさよ）

所属 : 愛媛大学医学部附属病院 泌尿器科・歯科口腔外科

共同演者名：福本 哲也、合田 啓之、村上 聡、曾根 司央子

入院患者の高齢化が進む中、A 病棟では 60 歳以上の患者が全体の 7 割を占め、その中でも 70 歳以上の割合が多い。在院日数短縮に伴い、短期間に安全で質の高い看護を実践しなければならない。このような状況下で発生するインシデントの中には、認知機能の低下、見当識障害、不穏などのキーワードが多くみられる。せん妄状態にある患者の対応には、複数の人員と時間を要し、何よりも患者の苦痛が伴い、安全確保が困難になる。

そこで、A 病棟でせん妄スクリーニング、アセスメント、せん妄予防の看護について老人看護専門看護師による学習会を開催し、医師、薬剤師にも協力依頼し、せん妄予防の看護に取り組んだ。その結果、夜間の業務負担軽減、せん妄に関連した転倒・転落やチューブトラブルのインシデント減少や身体拘束件数の減少に繋がった。その取り組みについて、管理者の視点から報告する。

カテゴリー = 9 - 4（看護業務：その他）

第 13 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会奨励賞

◎奨励賞 4 演題

演題 6 : 当院の褥瘡発生患者の現状と課題ー褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定患者を含めて

演者名 : 磐浅 万紀子 (いわさ まきこ)

所属 : 社会福祉法人恩賜財団済生会今治病院 看護部

共同演者名 : なし

演題 7 : 病床管理 DX ツール「Smart-BedControl」でより良い転棟を

演者名 : 上野 裕介 (うえの ゆうすけ)

所属 : 社会医療法人石川記念会 HITO病院

共同演者名 : 高橋 大樹

演題 14 : 産後ケアパス 7 泊 8 日に見直して～お母さんと赤ちゃんのサポート～

演者名 : 千葉 美由紀 (ちば みゆき)

所属 : 社会医療法人同心会 西条中央病院 産科ユニット

共同演者名 : なし

演題 27 : 未来は自分たちの手で作るー四画面思考を用いてー

演者名 : 三好 麻希 (みよし まき)

所属 : 医療法人社団樹人会 北条病院

共同演者名 : 高石 義浩



特定非営利活動法人

日本医療マネジメント学会の入会案内と入会手続き

Japan Society for Health Care Management

<http://jhm.umin.jp/>

理事長挨拶



日本医療マネジメント学会が発足して27年目になります。本学会は医療の質の向上を求めてクリティカルパスをはじめ医療福祉の連携、安全管理等々、医療福祉の現場における各種の課題の研究、提案を行い、成果を上げて参りました。

本学会の主な活動には全国学術総会の開催があります。第26回日本医療マネジメント学会学術総会（会長 福岡赤十字病院院長 中房 祐司 先生）は2024年6月21日、22日の2日間にわたり福岡国際会議場、福岡サンパレスで開催され、日本全国から多数参加の下に熱心な発表と討論が行われました。会員各位の御協力に感謝申し上げます。

さて、第27回日本医療マネジメント学会学術総会（会長 国立病院機構仙台医療センター名誉院長 上之原 広司 先生）は2025年7月18日、19日の2日間にわたって“仙台国際センター、江陽グランドホテル”で開催されます。斬新かつ充実した素晴らしいプログラムが企画されています。

多数の皆様の御参加をお待ち致します。

理事長 宮崎 久義

学会組織

- 理事会 会務を執行。
- 評議員会 学会の重要事項を審議。
- 総会 学会の最高議決機関で、学術総会時に開催。
- 委員会 広報委員会：学会活動を学会会員及び学会非会員へ提供。学会ホームページの運用。
- 企画委員会：学会主催のセミナーなどの企画・開催、学会発行の書籍の企画・出版。
- 学会雑誌編集委員会：学会雑誌の企画、発行。
- 保険・医療制度対策委員会：学会活動で明らかになった諸問題に対し、関連機関へ働きかけ。
- 医療の質委員会：患者中心の医療の質の評価手法、医療の質の向上・維持手法について検討。
- クリティカルパス委員会：クリティカルパスの開発普及及びクリティカルパス・ライブラリーを運営。
- DX委員会：DXに関する研究。
- 医療安全委員会：医療安全全般に係る情報の収集、分析、発信。
- 地域医療委員会：地域の医療の在り方、地域医療支援病院に関する検討。
- 個人情報保護委員会
- 薬事委員会
- 分科会等 地域連携分科会、医療安全分科会、医療福祉連携講習会、医師事務作業補助者指導者養成講習会、クリティカルパスワークショップなどの開催。
- 支部 各都道府県に支部を設置し、支部学術集会、研修会などの企画、運営。

入会申し込み

- 一般正会員 学会の趣旨に賛同される個人
- 年会費 医師・歯科医師 10,000円
- 医療スタッフ・福祉・一般 7,000円
- 主な特典 日本医療マネジメント学会雑誌（年間5冊出版）、News Letterの提供
- 賛助会員 学会の趣旨に賛同される企業など
- 年会費 100,000円
- 主な特典 ・一般正会員1名と同等の特典
- ・学会主催展示会で優先的に展示場所割当
- 会計年度 本学会の会計年度は4月～翌年3月です。
- 入会申し込み 所定の入会申込用紙に必要事項をご記入の上、郵送またはFAXにてお申し込みください。
- 本学会ホームページからも入会手続きは可能ですのでご利用下さい。

特定非営利活動法人
日本医療マネジメント学会

〒860-0806
熊本市中央区花畑町1番1号
大樹生命熊本ビル 3階
TEL:096(359)9099
FAX:096(359)1606
E-mail:jhm@space.ocn.ne.jp
<http://jhm.umin.jp/>

© 2024.9

設立の経緯

日本医療マネジメント学会は、1998年6月に発足したクリティカルパス研究会を基盤として設立されました。クリティカルパス研究会は、クリティカルパスを中心にした医療マネジメントのノウハウやツールを研究・開発する目的で、有志の医療関係者が集まって活動していた研究会です。その活動は、1998年6月に第1回定例会を開催、1999年11月までに講演会等を含め14回開催されました。中でも1999年6月に開催した第1回クリティカルパス全国研究交流フォーラム（つくば市）では、約1,800名の参加者があり、医療マネジメントへの関心の高さを認識しました。これを契機に、クリティカルパスをはじめ医療現場の課題を取り上げ、研究活動の更なる拡大を目的に学会に移行し、今日に至ります。

沿革

- | | | | |
|--------------|---|---------|--|
| 1998年6月 | 第1回クリティカルパス研究会
「医療経営とクリティカルパスの活用」 | 4月 | 第7回クリティカルパス実践セミナーin金沢 |
| 9月 | 第2回クリティカルパス研究会
「医療の質とクリティカルパスの活用」 | 5月 | 第8回クリティカルパス実践セミナーin大阪、
第9回クリティカルパス実践セミナーin沖縄 |
| | 第3回クリティカルパス研究会
「ディーズマネジメントとEBMとクリティカルパス」 | 6月 | 第5回医療マネジメント学会学術総会
「医療改革としての医療マネジメント」
【6月13日～14日 仙台国際センター
会長 山内 英生（国立仙台病院名誉院長）】
第8回医療連携セミナー
「地域医療支援病院の現状と課題」
書籍「クリティカルパス実践セミナーテキスト」発行 |
| 1999年2月 | 第4回クリティカルパス研究会
「クリティカルパスと日本版DRG/PPSの実現」 | 7月 | 第10回クリティカルパス実践セミナーin熊本、
第11回クリティカルパス実践セミナーin東京 |
| 4月 | 第5回クリティカルパス研究会
「米国病院視察報告と医療標準化のための薬剤投与
パターンの標準化の試み」 | 9月 | 第9回医療連携セミナー
「地域医療支援病院と外来分離—現状と課題—」、
第12回クリティカルパス実践セミナーin福岡 |
| 6月 | 第1回クリティカルパス全国研究交流フォーラム
（第1回学術総会）
【6月5日 つくば国際会議場
会長 小関 達（筑波記念病院院長）】 | 10月 | 第13回クリティカルパス実践セミナーin姫路、
第1回「DPC対応型クリティカルパス」特別セミナー |
| 7月 | 第6回、第7回合同クリティカルパス研究会
「クリティカルパス第一世代から第二世代へ」 | 11月 | 第4回リスクマネジメント・セミナー
「医療安全の新たな展開」 |
| 9月 | 第8回クリティカルパス研究会
「クリティカルパスの適用・非適用の条件を探る」 | 2004年1月 | 第2回電子カルテセミナー
「電子カルテシステムの導入のノウハウ」、
書籍「地域医療支援病院と医療連携のありかた」発行 |
| 9月18日 | 医療マネジメント学会設立 | 2月 | 第14回クリティカルパス実践セミナーin熊本、
書籍「クリティカルパス最近の進歩2003」韓国版 発行 |
| 11月 | 第9回クリティカルパス研究会
「高齢患者用クリティカルパスの作成と活用」 | 4月 | 第15回クリティカルパス実践セミナーin熊本 |
| 2000年3月～4月 | 学会設立記念セミナー全国7都市で開催 | 6月 | 第6回医療マネジメント学会学術総会
「患者中心の医療を考える
—クリティカルパスのより良い、より広い活用方法を求めて—
【6月18日～19日 サンポートホール高松
香川県民ホール
会長 原田 英雄（香川県立病院院長）】
書籍「クリティカルパス最近の進歩2004」発行、
書籍「電子カルテシステムの普及に向けて」発行 |
| 5月 | 医療マネジメント学会ホームページ開設 | 7月 | 第2回「DPC対応型クリティカルパス」特別セミナー、
雑誌「医療安全」創刊 |
| 6月 | 第2回医療マネジメント学会学術総会
「さらなる医療の質の向上をめざして
—第2世代のクリティカルパス—
【6月9日～10日 熊本県立劇場
会長 宮崎 久雄（国立熊本病院院長）】 | 8月 | 第16回クリティカルパス実践セミナーin京都 |
| 7月 | 第1回医療連携セミナー「地域医療連携の実現」 | 9月 | 第10回医療連携セミナー
「地域医療支援病院と逆紹介」 |
| 12月 | 第2回医療連携セミナー「地域医療連携の実現（2）」 | 10月 | 第17回クリティカルパス実践セミナーin熊本、
書籍「研修医のためのクリティカルパス活用ガイド」発行 |
| 2001年5月 | 第3回医療連携セミナー
「大学附属病院、地域医療支援病院の地域との医療連携」 | 11月 | 第5回リスクマネジメント・セミナー、
「リスクマネジメントの新たな展開」 |
| 6月 | 第3回医療マネジメント学会学術総会
「21世紀の医療サービスを考える」
【6月8日～9日 パシフィコ横浜
会長 小林 寛伊（NTT東日本関東病院院長）】 | 2005年1月 | 第3回電子カルテセミナー
「DPC対応電子カルテシステム」 |
| 9月 | 第4回医療連携セミナー
「急性期病棟の外来と医療連携」 | 2月 | 第18回クリティカルパス実践セミナーin熊本 |
| 10月 | 第1回リスクマネジメント・セミナー
「患者の安全確保をめざして」 | 4月 | 第19回クリティカルパス実践セミナーin熊本 |
| 12月 | 第5回医療連携セミナー
「急性期病棟の外来と医療連携（Ⅱ）」、
書籍「新たな医療連携の実践—その現状と方策—」発行 | 6月 | 第7回医療マネジメント学会学術総会
「安全かつ最良最速な医療の提供を目指して」
【6月24日～25日 福岡国際会議場 福岡サンパレス
会長 堀元剛（国立福岡病院九州医療センター院長）】
雑誌「連携医療」創刊 |
| 2002年1月 | クリティカルパスセミナー
「クリティカルパスの導入と展開」（京都） | 7月 | 第20回クリティカルパス実践セミナーin名古屋 |
| 3月 | 第6回医療連携セミナー「急性期病棟と外来分離」 | 8月 | 特定非営利活動法人化 |
| 5月 | 第2回リスクマネジメント・セミナー
「組織で取り組む医療安全」 | 9月 | 第11回医療連携セミナー
「疾病別連携と連携クリティカルパス」、
書籍「臨床指標の実現」発行 |
| 6月 | 第4回医療マネジメント学会学術総会
「効率的で安心できる医療を実現するために」
【6月28日～29日 京都府会館・京都市勧業館
会長 岡 隆宏（京都第一赤十字病院院長）】 | 10月 | 第3回「DPCとクリティカルパス」
特別セミナー「DPCと病院マネジメント」 |
| 7月 | 書籍「急性期病棟のあり方と外来分離」発行 | 11月 | 第6回リスクマネジメント・セミナー
「医療安全の課題とブレイクスルー」 |
| 9月 | 第7回医療連携セミナー「疾病別連携」 | 2006年1月 | 第4回電子カルテ分科会
「医療情報システムの標準化と情報保護」 |
| 10月 | 第1回クリティカルパス実践セミナーin熊本、
第2回クリティカルパス実践セミナーin札幌 | 2月 | 第21回クリティカルパス実践セミナーin熊本 |
| 11月 | 第3回リスクマネジメント・セミナー
「リスクマネージャーの役割と分析方法論」 | 5月 | 地域連携クリティカルパス分科会 |
| 2003年1月 | 第1回電子カルテセミナー
「電子カルテ導入を目指して」 | | |
| 2月 | 第3回クリティカルパス実践セミナーin熊本、
第4回クリティカルパス実践セミナーin岡山、
書籍「クリティカルパス最近の進歩2003」発行 | | |
| 3月 | 第5回クリティカルパス実践セミナーin横浜、 | | |

6月	第8回日本医療マネジメント学会学術総会 「医療の安全と質－医療・介護体制の改革をめぐって－」 【6月16日～17日 パシフィコ横浜 会場 高橋 俊哉（国立病院機構横浜医療センター院長）】	4月	医療福祉連携士第1期生認定
9月	雑誌「イザイ」創刊	5月	2011年度第1回医師事務作業補助者講習会（第1、2クール）
10月	第22回リハビリ実践セミナーin熊本	6月	第13回日本医療マネジメント学会学術総会 「地域で守る患者中心の医療－チーム医療と医療連携－」 【6月24日～25日 京都市勧業館みやこめっせほか 会場 香川 康造（市立福知山市市民病院院長）】
11月	医療安全分科会 「カルテレビューと安全ラウンドの実践」	7月	書籍「医療安全のリーダーシップ論」発行、 2011年度医療福祉連携講習会（第1クール）
2007年2月	平成18年度第2回リハビリ実践セミナーin熊本	8月	2011年度医療福祉連携講習会（第2、3クール）
5月	平成19年度第1回地域連携リハビリ分科会 「地域連携クリティカルパスの効果的活用を目指して」	9月	2011年度医療福祉連携講習会（第4クール）
6月	日本学会協議会学術研究団体指定	10月	2011年度第2回医師事務作業補助者講習会（第1クール）、 2011年度第1回医療安全分科会
7月	第9回日本医療マネジメント学会学術総会 「医療のより良い提供体制とより良い利用方法を求めて－ 限られた医療資源を有効利用するために－」 【7月13日～14日 グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール 会長 落合 悠之（NTT東日本関東病院院長）】	12月	2011年度医療福祉連携講習会（第5クール）、 2011年度第2回医師事務作業補助者講習会（第2クール）
9月	平成19年度第1回リハビリ実践セミナーin熊本	2012年2月	2011年度第1回リハビリ実践セミナーin大阪、 2011年度第1回医療連携分科会
11月	平成19年度第1回医療安全分科会 「チームで取り組む医療安全」	6月	2012年度第1回医師事務作業補助者講習会（第1クール）
2008年2月	平成19年度第2回リハビリ実践セミナーin熊本、 平成19年度第2回地域連携リハビリ分科会 「脳卒中、がん、糖尿病、急性心臓病等における現状と課題」	7月	2012年度第1回医師事務作業補助者講習会（第2クール）、 2012年度医療福祉連携講習会（第1クール）
5月	書籍「5日間で学ぶ 医療安全超入門」発行	8月	2012年度医療福祉連携講習会（第2、3クール）
6月	第10回日本医療マネジメント学会学術総会 「安全・安心・信頼の医療 ～未来につづく地域医療連携～」 【6月20日～21日 名古屋国際会議場 会長 福道 孝夫（トヨタ記念病院院長）】	9月	2012年度医療福祉連携講習会（第4クール）
7月	平成20年度第1回リハビリ実践セミナーin神戸	10月	第14回日本医療マネジメント学会学術総会 「地域医療の発展と絆－チーム医療と地域連携をさらに進める ヒューマンネットワーク作りを目指して－」 【10月12日～13日 アルカスSASEBOほか 会長 江口 勝美 （佐世保市立総合病院 病院事業管理者兼院長）】
9月	平成20年度第2回リハビリ実践セミナーin熊本、 平成20年度第1回地域連携リハビリ分科会 「地域医療連携と脳卒中における 地域連携リハビリの現状と課題」	11月	2012年度医療安全分科会、 2012年度第2回医師事務作業補助者講習会（第2クール）
10月	平成20年度第1回医療連携分科会 「医療計画を理解する ～これからの地域医療連携の展望と課題」	12月	2012年度医療福祉連携講習会（第5クール）
11月	平成20年度第1回医療安全分科会 「医療安全はどこへ向かうのか －いま注目すべき症例検討会と医療リ・イノベーション－」	2013年2月	2012年度リハビリ実践セミナーin下関、 2012年度医療連携分科会
2009年2月	2008年度第3回リハビリ実践セミナーin熊本、 2008年度第2回地域連携リハビリ分科会 「がんの地域連携リハビリの実践と課題」	6月	第15回日本医療マネジメント学会学術総会 「とりもどそう あたたかい故郷を －地域との協働で拓く医療の未来－」 【6月14日～15日 マリオス（郡山市文化ホール）ほか 会長 望月 泉（岩手県立中央病院院長）】
6月	第11回日本医療マネジメント学会学術総会 「新しい医療連携構築への展開 －医療・保健・福祉の地域活性化をめざして－」 【6月12日～13日 長崎ブリックホールほか 会長 米倉 正大（国立病院機構長崎医療センター院長）】	7月	2013年度第1回医師事務作業補助者講習会（第1クール） 書籍「ねころんで読める WHO患者安全カリキュラムガイド」発行、 2013年度第1回医師事務作業補助者講習会（第2クール）、 2013年度医療福祉連携講習会（第1クール）
8月	2009年度第1回リハビリ実践セミナーin札幌	8月	2013年度医療福祉連携講習会（第2クール）
11月	2009年度第1回医療安全分科会 医療安全の基礎、信頼のコミュニケーションのすべて」、 2009年度第1回電子化分科会 「地域医療ネットワークのIT化 －地域医療連携の現状とこれからのIT化の展望を問う！」、 2009年度第1回医療連携分科会 「医療連携における薬剤情報ならびに物流を考える」	9月	2013年度医療福祉連携講習会（第3、4クール）
2010年2月	2009年度第2回リハビリ実践セミナーin滋賀	10月	2013年度第1回リハビリ実践セミナーin青森 2013年度医療安全分科会、 2013年度第2回医師事務作業補助者講習会（第1、2クール）、 2013年度医療福祉連携講習会（第5クール）
5月	2010年度第1回医師事務作業補助者講習会（第1、2クール）、 書籍「がん地域連携クリティカルパス －がん医療連携とコーディネート機能－」発行	2014年2月	2013年度医療連携分科会
6月	第12回日本医療マネジメント学会学術総会 「チームでめざすこれからの医療 －良質で安全な医療サービスの提供のために－」 【6月11日～12日 札幌コンベンションセンターほか 会長 森 温信（札幌社会保険総合病院院長）】	5月	2014年度第1回リハビリ実践セミナーin鹿児島、 2014年度第1回医師事務作業補助者講習会（第1クール）
7月	2010年度医療福祉連携講習会（第1クール）	6月	第16回日本医療マネジメント学会学術総会 「楽しく働くために 医療の進むべき姿を求めて－」 【6月13日～14日 岡山コンベンションセンターほか 会長 青山 真司 （国立病院機構岡山医療センター名誉院長）】
8月	2010年度医療福祉連携講習会（第2クール）	7月	2014年度医療福祉連携講習会（第1クール） 書籍「医療を管理する 安全を測る」発行、 2014年度第1回医師事務作業補助者講習会（第2クール）、 2014年度医療福祉連携講習会（第2クール）
9月	2010年度医療福祉連携講習会（第3、4クール）	8月	2014年度医療福祉連携講習会（第3クール）
10月	2010年度第1回リハビリ実践セミナーin仙台 2010年度医療福祉連携講習会（第5クール）、 2010年度第1回医療安全分科会 「医療安全のための根本原因分析とチーム医療のスキル」	9月	2014年度医療福祉連携講習会（第4クール）
11月	2010年度第2回医師事務作業補助者講習会（第1、2クール）、 2010年度第1回医療連携分科会	10月	2014年度医師事務作業補助者講習会（第1クール）
2011年1月	2010年度第2回リハビリ実践セミナーin岡山	11月	2014年度医療安全分科会、 2014年度医師事務作業補助者講習会（第2クール）、 2014年度医療福祉連携講習会（第5クール）
		2015年2月	2014年度医療連携分科会
		5月	2015年度医療福祉連携講習会（第1クール）、 2015年度第1回医師事務作業補助者講習会（第1クール）
		6月	第17回日本医療マネジメント学会学術総会 「医療に対する不確実性 ～変化するもの、変わるもの～」 【6月12日～13日 グランキューブ大阪（大阪国際会議場） 会長 山根 哲郎 （パナソニック健康保険組合松山記念病院院長）】
			2015年度第1回医師事務作業補助者講習会（第2クール）

7月	書籍「ストレス要因別 「防げたはず」のエラーが起こる瞬間」発行、 2015年度医療福祉連携講習会（第2クール）	8月	書籍「臨床事例で学ぶコミュニケーションエラーの “心理学的”対処法」発行、 2019年度医療福祉連携講習会（第3クール）
8月	2015年度医療福祉連携講習会（第3、4クール）	9月	2019年度医療福祉連携講習会（第4クール）
10月	2015年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第1クール）	10月	2019年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第1クール）
11月	2015年度医療福祉連携講習会（第5クール）、 2015年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第2クール）、 2015年度医療安全分科会	11月	2019年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第2クール）
2016年2月	2015年度医療連携分科会、 2015年度クリティカル実践セミナーin仙台	12月	2019年度医療福祉連携講習会（第5クール）
4月	第18回日本医療マネジメント学会学術総会 「明るい病院改革 ～改善とイノベーションで切り拓く明日の医療～」 【4月22日～23日 福岡国際会議場 福岡サンパレス 会長 田中 二郎（熊本県立病院名誉院長）】	2020年1月	2019年度医療安全分科会
6月	2016年度医療福祉連携講習会（第1、2クール）、 2016年度医師事務作業補助者講習会（第1クール）	2月	2019年度クリティカルバスワークショップ、 2019年度医療連携分科会
7月	2016年度医療福祉連携講習会（第3クール）、 2016年度医師事務作業補助者講習会（第2クール）	10月	第22回日本医療マネジメント学会学術総会 「病院ビッグデータ革命 ～データ活用による「医療の 質」「医療・介護連携」の飛躍（Leap）を求めて～」 【10月6日～7日 みやこめっせ（京都市勧業館）ほか 会長 三木 恒治（済生会滋賀県病院院長）】 書籍「医療安全研修テーマ・実践例集 研修が活性化する計画から実施のコツまで」発行
8月	2016年度医療福祉連携講習会（第4クール）	2021年7月	第23回日本医療マネジメント学会学術総会 「今、医療・介護に大切なこと～変革に挑戦する～」 【7月15日～30日 完全Webオンデマンド配信 会長 亀山 雅男 （社会医療法人人生会ベルランド総合病院理事長）】
9月	書籍「そのときどうする！？ 予期せぬ急変・死亡時の現場対応マニュアル」発行	9月	2021年度医療福祉連携講習会（第1クール）
10月	2016年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第1クール）、 2016年度医療福祉連携講習会（第5クール）	10月	2021年度医療福祉連携講習会（第2クール）
11月	2016年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第2クール）、 2016年度医療安全分科会	11月	2021年度医療福祉連携講習会（第3クール）
2017年2月	2016年度医療連携分科会	2022年1月	2021年度医療福祉連携講習会（第4クール）
5月	2017年度医師事務作業補助者講習会（第1クール）	5月	2021年度医療福祉連携講習会（第5クール前期）
6月	2017年度医師事務作業補助者講習会（第2クール）	7月	第24回日本医療マネジメント学会学術総会 「持続可能な地域医療を目指して ～機能分化・連携と人材マネジメント～」 【7月8日～9日 神戸ポートピアホテル 神戸国際会議場 会長 大西 祥男（地方独立行政法人加古川市民病院機構 理事長 兼 加古川中央市民病院院長）】
7月	2017年度医療福祉連携講習会（第1クール）、 第19回日本医療マネジメント学会学術総会 「地域を守るあたたかな医療 ～患者・職員の満足をめざして～」 【7月7日～8日 仙台国際センター 会長 田所 慶一 （国立病院機構仙台医療センター名誉院長）】 書籍「ガマンしない、させない！ 院内暴力対策「これだけは」」発行	11月	2021年度医療福祉連携講習会（第5クール後期）
8月	2017年度医療福祉連携講習会（第2、3クール）	2023年2月	2022年度地域連携分科会
10月	2017年度医療福祉連携講習会（第4クール）、 2017年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第1クール）	6月	第25回日本医療マネジメント学会学術総会 「『病院医療の真諦』～「パンデミック・災害と BCP」から「求められる医療」へ～」 【6月23日～24日 パシフィコ横浜 会長 山本 豊 （横浜メディカルグループ第1名記念病院理事長）】
11月	2017年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第2クール）	7月	書籍「医療・看護現場の心理的安全性のすすめ」発行
12月	2017年度医療福祉連携講習会（第5クール）	8月	2023年度医療福祉連携講習会（第1クール）
2018年1月	2017年度医療安全分科会	9月	2023年度医療福祉連携講習会（第2クール）
2月	2017年度医療連携分科会	10月	2023年度医療福祉連携講習会（第3クール）
6月	第20回日本医療マネジメント学会学術総会 「医療・地域に根ざした強いチーム力を培う」 【6月8日～9日 ニトリ文化ホールほか 会長 斎部 宏（KKR札幌医療センター病院院長）】	2023年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第1クール）	2023年度医療福祉連携講習会（第4クール）
7月	書籍「患者・家族の意思決定、現場の判断を支える “やさしい”臨床倫理フレームワーク」発行	2024年1月	2023年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第2クール）、 2023年度医療安全分科会、 2023年度医療福祉連携講習会（第5クール）
8月	2018年度医療福祉連携講習会（第2クール）	2月	2023年度クリティカルバスワークショップ
9月	2018年度医療福祉連携講習会（第3、4クール）	3月	2023年度地域連携分科会
10月	2018年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第1クール）	6月	第26回日本医療マネジメント学会学術総会 「信頼と調和による医療マネジメント ～地域と共に質の高い、安全な医療をつくる～」 【6月21日～22日 福岡国際会議場、福岡サンパレス 会長 中野 祐司（福岡赤十字病院院長）】
11月	2018年度医療福祉連携講習会（第5クール）	8月	2024年度医療福祉連携講習会（第1クール）
12月	2018年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第2クール）	9月	2024年度医療福祉連携講習会（第2クール）
2019年1月	2018年度医療安全分科会、 2018年度クリティカルバスワークショップ		2024年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第1クール）
2月	2018年度医療連携分科会		
6月	2019年度医療福祉連携講習会（第1、2クール）		
7月	第21回日本医療マネジメント学会学術総会 「私たちの働き方改革 ～良質で成熟した日本の医療をめざして～」 【7月19日～20日 名古屋国際会議場 会長 横川 常徳（地域医療機能推進機構中京病院院長）】		

学会の活動

- 学術総会の開催
- 日本医療マネジメント学会雑誌の発行（5冊／年）
- News Letterの発行
- 書籍発行
- 地域連携分科会、医療安全分科会、医療福祉連携講習会、
医師事務作業補助者指導者養成講習会、
クリティカルバスワークショップなどの開催
- 保健医療政策に対する関係機関への働きかけ
- 委員会の開催 ●支部学術集会の開催

第27回日本医療マネジメント学会学術総会
2025年7月18日（金）～19日（土）
仙台国際センター ほか
会長：上之原 広司
（国立病院機構仙台医療センター名誉院長）

日本医療マネジメント学会への入会のご案内（郵送または FAX による申込方法）

※ホームページからの入会方法は <http://jhm.umin.jp/> をご覧下さい。

入会申込(一般正会員及び賛助会員):入会されますと退会の申し出があるまで自動継続となります。

◎**一般正会員** 学会の趣旨に賛同される個人

年 会 費 医師・歯科医師 10,000 円

医療スタッフ・福祉・一般 7,000 円

主 な 特 典

・日本医療マネジメント学会雑誌（年間 5 冊出版）、News Letter 提供

手 続 き

一般正会員のお申込は、次頁の一般正会員入会申込書を記入し、郵送または FAX にて学会事務局までお送り下さい。

入会申込書受理後、学会事務局より年会費の払込取扱票をお届けします。郵便局またはコンビニエンスストアでお振り込み下さい。年会費のご入金確認後、学会会員番号通知をお届けします。学会会員番号通知がお手元に届きましたら、手続きは完了です。

メールアドレスをご登録頂いた方には、年会費のご入金確認後、メールにて会員マイページのご案内をお届けします。会員マイページにログイン後、学会会員番号をご確認頂けます。

なお、一般正会員の入会申込は学会ホームページからも可能です。

※入会申込を頂いてから、学会会員番号通知がお手元に届くまで 10 日ほどかかります。

◎**賛助会員** 学会の趣旨に賛同される企業など

年 会 費 100,000 円

主 な 特 典

・一般正会員 1 名と同等の特典
・学会主催展示会で優先的に展示場所割当

手 続 き

賛助会員のお申込は、別途所定の申込用紙がございますので学会事務局までご連絡下さい。

※ 会計年度は 4 月～翌年 3 月です。年度途中の入会であっても年会費全額を納入して頂きます。

※ 入金された日が入会日となります。

※ 一度入金された年会費は返金できませんので、ご注意下さい。

※ 過去に本学会会員となられ、年会費の滞納を理由に退会された方が、再入会を希望される場合は、滞納分年会費をお支払い頂く必要がございます。入会申込書受理後、学会事務局より滞納分と新規入会分を合わせた年会費の払込取扱票をお届けいたします。

※ 退会希望の場合、退会希望年度の末日（3 月 31 日必着）までに退会手続きをして下さい。

第27回 The 27th Annual Meeting of the Japan Society for Health Care Management

日本医療マネジメント学会 学術総会

少子・高齢化時代の医療マネジメント
～医療・介護に求められる変革～

2025
7/18(金) Fri 19(土) Sat

会場 ●仙台国際センター展示棟
●江陽グランドホテル

会長 上之原 広司

国立病院機構仙台医療センター 名誉院長
社会医療法人康陽会中嶋病院 顧問



学術総会
事務局

国立病院機構仙台医療センター
〒983-8520 仙台市宮城野区宮城野2-11-12
TEL: 022-293-1111 (代表) FAX: 022-291-8114 (代表)

学術総会
運営事務局

株式会社コングレ東北支社
〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-4-1 仙台第一生命タワービルディング
TEL: 022-723-3211 FAX: 022-723-3210
E-mail: jhm2025@congre.co.jp



<https://www.congre.co.jp/jhm2025/>

